

同窓会初めての海外旅行

上海・蘇州・湖州・杭州の旅

中国に初代会長桑村さんを訪ねて

2004 年 11 月 9 日～14 日

その 2 : 旅行記・第 2 日 2004 年 11 月 10 日

太湖、彫花楼、自由市場、啓園、寒山寺

留園、運河遊覧、シルク工場



千葉県市川市立第二中同窓会・有志

4.2 第2日 2004年11月10日

午前：太湖、雕花楼、東山市場、啓園

午後：寒山寺、留園、蘇州の運河、蘇州名産品シルク工場

夕食：得月楼菜館 宿泊：第1日目と同じ蘇州楽卿飯店

(1)早朝の路上太極拳：早朝に街中で見かけた風景

中国は太極拳が盛んです。ここでアップした写真は町の広い通りで太極拳を楽しんで知る写真です。蘇州に限らず、北京その他の地域でも、早朝路上や公園で太極拳をする人たちを見かけることができます。

三々五々集まってきて、グループの中に入り、太極拳を始めます。いろいろなところで太極拳を楽しんでいる風景を見ることができます。



(2)太湖

中国四大淡水湖の一つ、面積は 2425 m²、日本の琵琶湖の約 3.6 倍の大きさ。湖には、西側から多くの水路が流入、東側から長江に注ぐ。

湖面の標高は低く約 3 m、水深も 3～4 m と浅い。



しかし雄大な風景ですね。

右の写真はパンフレットに掲載されている画像



(3) 東山・彫花楼(春在楼ともいう)(所在地：東山鎮南光明村)

彫花楼の元来の名は「春在楼」、「日の当たる屋敷に常に春あり」ということから名づけられた。主楼の梁、柱、窓格子の上に繊細な彫刻が刻まれているので「彫花楼」と名付けられた。

金錫之、金植之の兄弟、もともとは豊かでなかったが、短期間に財を成し、東山一の資産家になった。二人は豊かさを見せびらかすために、1922～1925 年 3741 両の黄金を投じて上等な材料と名匠の腕により、東山一の彫花楼を建てた。

彫花楼は見た目は二階建てだが、実際は三階建て、三階に貴重な財産を隠し持っていたという。



バスで到着、早速写真撮影です

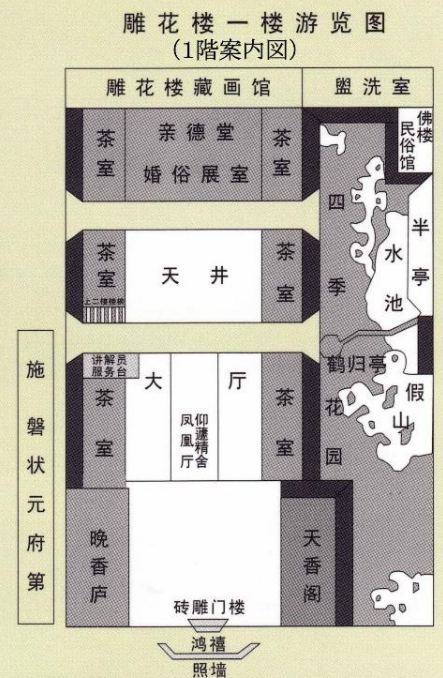
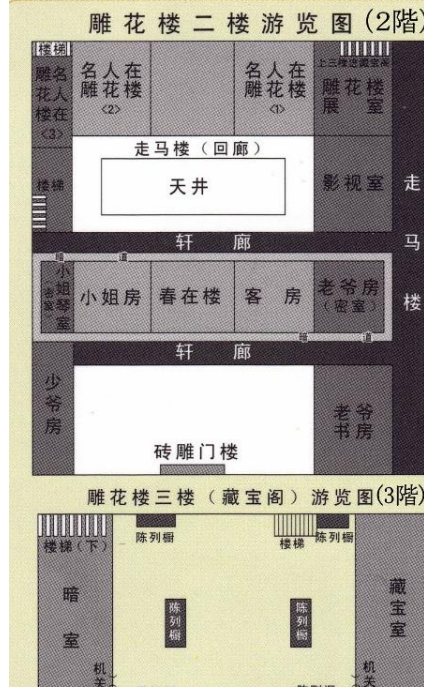


2004.11.10 彫刻大楼 (春在楼)
富豪・金植之が1925年に建てた邸宅
邸内には100近くの部屋がある

雕花楼案内図

『雕花楼导游图』

右図は彫花楼の一階、
二階、三階の見取り図。
天井は吹き抜けのようだ。
(この図は現地のパン
フレットから)



左上に見えるのが3階か？

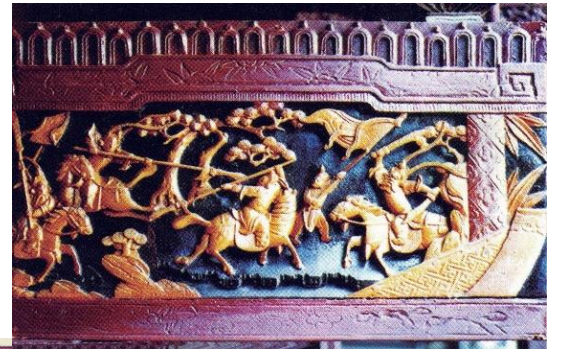




出入り口の扉にも立派な彫刻が



脚踏有福



このような彫り物で建物が
埋め尽くされている



进门有宝



彫花楼



兎に角彫刻彫刻彫刻の彫花楼：彫刻だらけなのでこの名が付いた



彫花楼の壁に描かれている壁画



左の画像は彫花楼
入口の門の上部

(3) 東山果品市場（自由市場）

東山の自由市場、添乗員の周さんが案内してくれた。周さんは、日本在住だが、出身はこの地、中国蘇州東山の出身、帰省するたびにこの市場には寄るという。



添乗員の周さんは
ここ東山の出身
帰国の時はこの市場で
買い物をするという

銀杏 500g を 20 元で買いました。写真を見ると 20 元・475 円になっています。

写真を整理している現在は 2022 年 6 月、元/円交換レートは約 20 円/元、20 元は 400 円です。今ならもっと安く買えたんですね。



(4) 啓園

啓園（中国読み：チーユエン）はすべての庭園の中で唯一山を背にし、湖に臨むという造りになっている庭園です。

1933 年に席という姓の商人によって建てられた私的な庭園のため、またの名を席家花園ともいう。庭全体では、四面ホール、複廊、湖、岩山、新しい建物の構成がバランスよく、非常に調和しています。

席氏は、その祖上が康熙皇帝を迎えたことを記念して建てられ、江南の珍しい山岳湖浜庭園であり、江南庭園の小巧さと湖光山色を一体にしている。







あまり広くないが竹林もありました

2004.11.10
啓園竹林巡り
楽しみました

舟が接岸する
船着き場



2004.11.10
太湖・東山
彫花大樓



2004.11.10
太湖・東山
彫花大樓

人を迎え入れるための棧橋



(5) 東山賓館で昼食

太湖の東山風景区にある東山賓館で昼食、「アヒルの舌（鴨子舌頭 舌頭：ヤーズシェートウ）」などの珍味も出た。

2004.11.10
昼食をとった
東山賓館



昼食をとった東山賓館



左の料理は珍味「あひるの舌(鴨子舌頭)」、右の料理は「白エビ料理」

(6) 寒山寺 (途中参加の 1 期の山本、桑村両氏を除き全員見学)



寒山寺は蘇州市にある臨済宗の仏教寺院。南北朝時代の天監年間(502年－519年)、武帝の時期に「妙利普院塔院」として建立されたとされる。その後、何回も焼けて現存するお寺は清代末期に再建されたものである。

寒山寺という現在の寺名は唐代の貞観年間(627－649年)に風狂の人寒山がこの地で草庵を結んだという伝承にちなむとされている。

全盛期の寒山寺の面積は広大で、「馬に乗って山門を見る」といわれるほどであった。当時、北方から訪れた旅行者の多くは、まず寒山寺を参詣してから蘇州市内に入ったという。



寒山寺の鐘楼



寒山寺前の
普濟橋

寒山寺の前にある普濟橋



五重塔（普明塔）

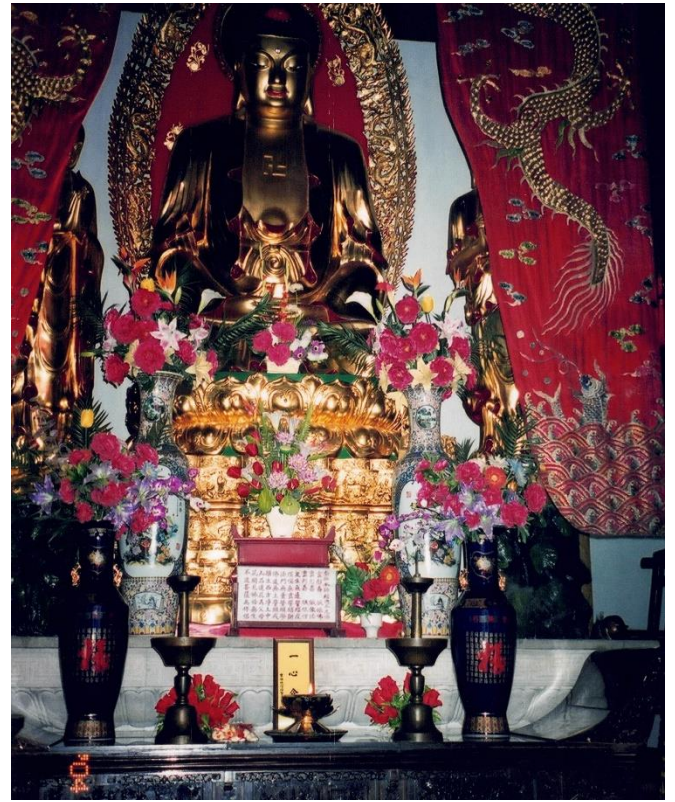


熱心に説明に聞き入る



日本で鑄造され
寒山寺に寄付
された鐘

日本で鑄造され
寄贈された鐘



寒山寺の名の由来となった
寒山と拾得の二人の高僧

(7) 留園 (世界文化遺産)

留園は「この世に長く残る」という意味を持っている。留園は明の嘉靖年間(1522～1566年)に建造され、北京の頤和園、承徳の避暑山荘、蘇州の拙政園と同じく有名であり、これら四園は全国四大名園とたたえられている。

留園の面積は2万平方メートル、蘇州の大型庭園の一つであり、庁堂、走廊、祠門などの建築群が空間を分割し、同時に巧妙に築山、水、花や木と組み合わせ、数十の大小様々な庭を造り、江南庭園建築の芸術風格の特徴を十分に具現している。





留園の風景

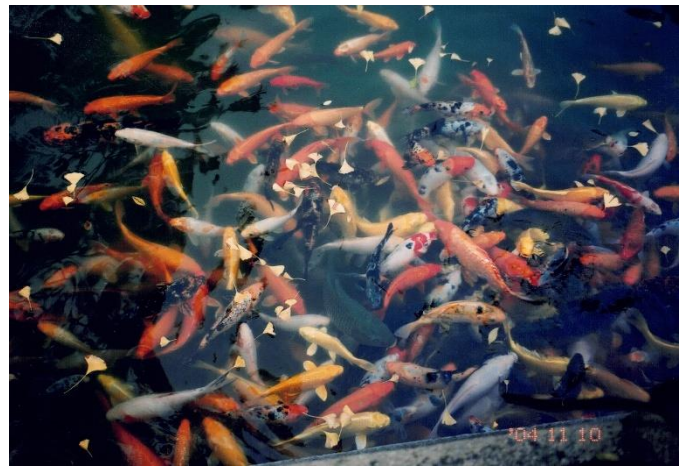


留園の「明琴楼」、琴や笛の音を披露してくれました。



こんな「???劇（名前を失念）」の芸人も一人劇を披露していました。

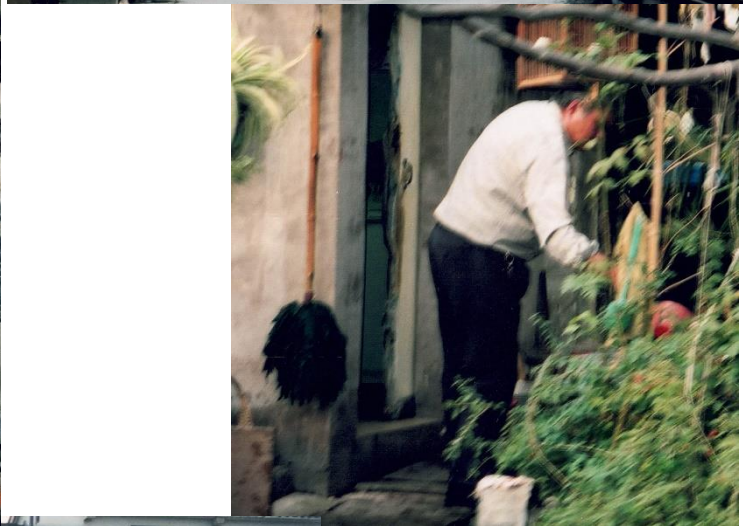
留園、こんな風景もありました。



（８）蘇州の運河・船上遊覧

蘇州市全体を世界遺産として申請したいということで、蘇州の運河は遊覧当時（2004 年）、改修中であつた。市の中心に近い方から順次改修が進んでいるとのことであつた。しかし、改修が進みすぎても、生活味あふれる水郷から遠のいてしまうのではないかという印象も受けた。（下の写真はパンフレットから）

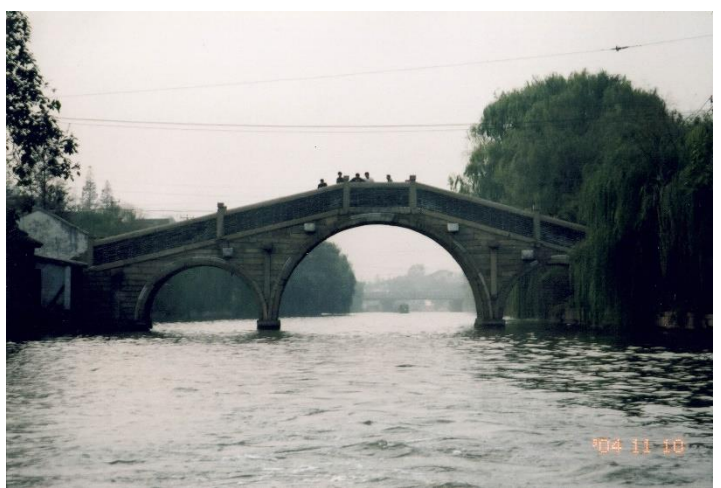
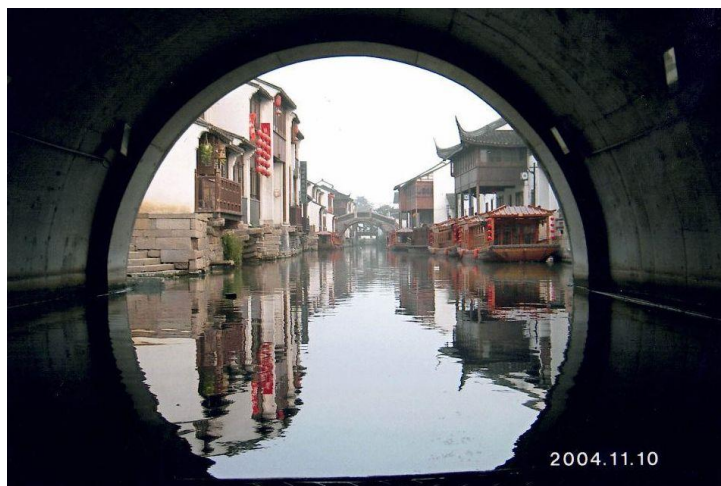


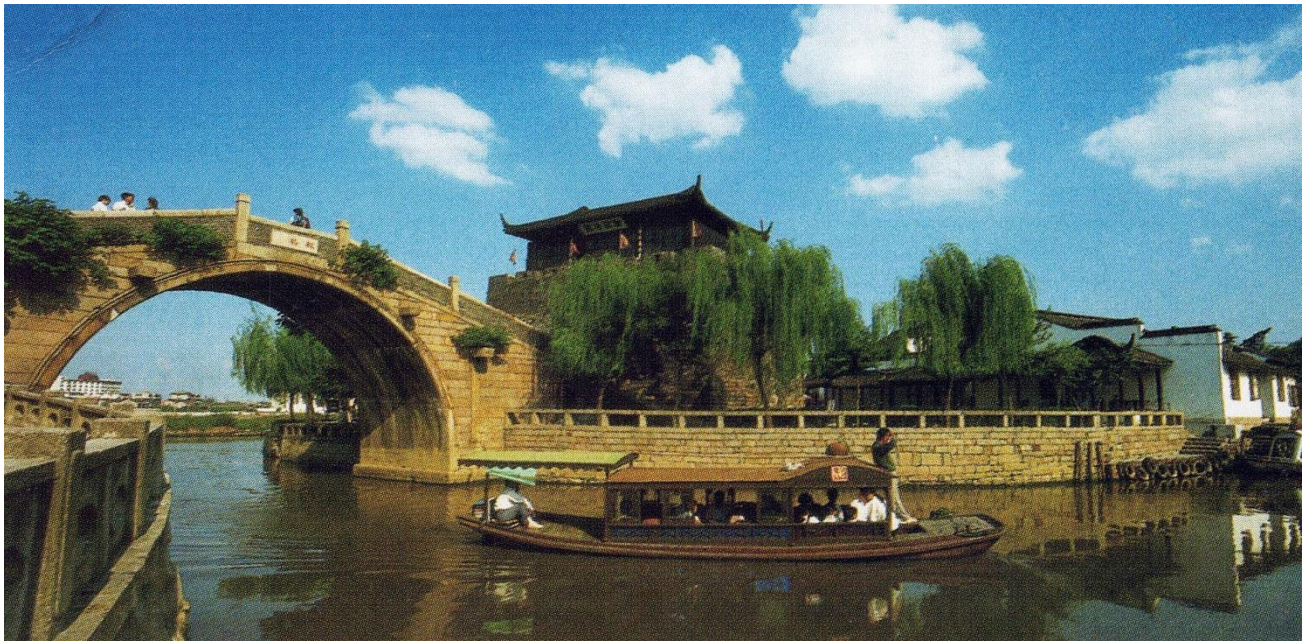


手を振る子供たち

2組に分かれて乗船したのか？
覚えていない。
上の写真には井上さんたちの
姿が見える







美しく造り直された水郷、水も綺麗になったという。

(9) 蘇州の名産品、シルクの工場へ

写残念ながら、写真は右のファッションショーの写真しかない。

メモに書いてあったが、皆さんの買物振りはすごかったようだ。



(10) 得月楼菜館で夕食

400 年以上の歴史を誇る蘇州三大レストランの一つ。蘇州の伝統的な料理の他、オリジナルな上海料理も地元で人気があるという。

